



Title	「世紀転換期の日英における移動と衝突―諜報と教育を中心に」報告・論文集 編集後記
Author(s)	
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/27382
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

編集後記

我々が所属する比較文学という学問領域では、内部にいる者同士で専門が重なることは滅多にありません。そのため、このようなセミナーやワークショップを開催する場合、個々人の結節点を見つけるということが難しい場合が多々あります。しかし、それは逆に考えれば、他の専門の方をお招きすることに関しては比較的門戸が開かれているということにもなりえます。普段行っている一対一の作品比較のうちに別の観点から第三点目の視点を導入する、すなわち三点測量を行うことによって、自分たちの行っている研究は全く予期しなかった方向へと導かれ、そして飛躍的に面白いものへと進化する可能性を秘めています。他領域で研究されている方と同じワークショップを組むということは、そういう意味で自身の研究を見つめ直す絶好の機会となるのです。

今回は同じ大阪大学大学院文学研究科のご出身ではありますが、西洋史学で博士号を取られた堀内真由美先生をゲストスピーカーとしてお招きしました。元々は橋本先生から『大英帝国の女教師』の存在を教えられ、堀内さんのお名前だけは存じ上げていたのですが、その後縁あって同じ研究会に顔を出すようになり、直接面識を得ることとなりました。四月からご所属が変更となるお忙しい時期に急に講演をお願いしたのですが、快くお引き受けいただいた堀内先生には心より御礼申し上げます。

今回のセミナーのタイトルに「移動と衝突」という言葉を入れましたが、TPP の問題で急速にグローバル社会の到来をつきつけられている今は、まさしく様々な産業の「移動」の時代と言えるでしょう。今回は「衝突」に焦点を置きましたが、現代社会においては「衝突」を経たとしても、最終的には融和へと収束してほしいものだと思います。

最後に、今回のセミナーの開催及び報告書の発行の予算をいただきました「卓越した大学院拠点形成支援補助金「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」」事務局、煩瑣な事務手続きをしていただいた本多由美、丹生絵海子両氏にはこの場をお借りして御礼申し上げる次第です。

卓越した大学院拠点形成支援補助金「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」

「世紀転換期の日英における移動と衝突—諜報と教育を中心に」報告・論文集

発行 2013 年 3 月 25 日

主催 卓越した大学院拠点形成支援補助金「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」
阪大比較文学会

印刷・製本・装幀 株式会社能登印刷

(関西営業所) 〒563-0032 大阪府池田市石橋 2 丁目 15-24